

かわさき区の宝物シート

宝物No.
6-10

なかじまはちまんじんじゃまつりはやし
中島八幡神社祭囃子



エリア	中央地区	シーズン	夏
	富士見・中島	日時	8月第1土日

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input checked="" type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物



所在地	川崎区中島2-15-1
問い合わせ	稲毛神社社務所
TEL	044-222-4554
FAX	044-245-2003
E-mail	info@takemikatsuchi.net
URL	http://takemikatsuchi.net/ (稲毛神社)
交通	JR川崎駅よりバス「中島交番前」下車徒歩2分



基礎情報

■中島八幡神社の祭囃子は、相模流の流れをくむものであり、横浜市港北区綱島から大田区六郷を経て現在の中島に伝えられたものといわれている。踊りを入れない祭囃子は早矢から始まり宮昇殿、鎌倉、国堅、師調目、そして早矢と演じられる。祭囃子の合間には、両国、亀戸、金沢、活光、麒麟、階殿、または地昇殿、大間昇殿、皮違、神田丸などの曲目が演じられる。

■祭囃子は戦後から長らく祭中断されていたが、昭和52年(1977)3月の地元保存会設立によって復活し、8月の中島八幡神社の祭礼で盛大に演じられるようになった。

由来・エピソード

■中島八幡神社は古来より中島村の鎮守として人々の崇敬の中心であった。創建の年代は不詳であるが、戦前には旧本殿に20余枚の棟札が保存されており、その中に「元和二年(1616)御社殿修復」の記録があるため、それ以前の創建であることは確かである。11世紀の頃、源義家による「後三年の役」の功績を後世に伝えるため創建されたという伝承もある。

■中島は江戸以前の頃までは戸数わずか13戸あまりの村落であった。村民が協力融和し神社を造営護持し、例年大祭を執行して御輿巡行や村芝居を興行し、やがて近隣の一大名物行事となっていた。戦災によって社殿等全てを焼失したが、町民氏子の努力によって昭和34年(1959)に再建された。

補足・その他

■祭囃子保存会では中島八幡神社以外にも、大川崎宿祭(5月)、かわさき市民祭り(10月または11月)などで祭囃子を披露している。

関連シート

(1-14)稲毛神社
(9-1)大師稲荷神社